甲州市の人や暮らしを伝える

甲州らいふ

2018 vol.08 koshulife

わたしと甲州市。

ご自由にお持ちください
TAKE FREE

甲州市の人や暮らしを伝える

甲州らいふ

自然と歴史と人が息づくまち、甲州市。

Contents

02 甲州らいふについて

05 甲州らいふ♪ つたえ隊

06 Feature 甲州らいふ 特集
小川壮太

10 甲州市ワイナリー探訪
vol.7 甲斐ワイナリー

13 KoshuLife News

14 FiND iT! KOSHU CiTY

16 甲州市を感じるお店
パンテーブル

19 甲州市の林業
峡東森林組合

22 甲州市 地域おこし協力隊

24 学生がいく！
ぐるり、甲州旅

26 初めて巡る甲州市

27 甲州市お役立ち情報

30 Photo DIARY
甲州らいふ♪ つたえ隊が見つけた魅力

山梨県甲州市は、日本百名山で知られる大菩薩嶺をはじめとする秩父山系の自然景観に恵まれ、ぶどうやもも、ころ柿などの果樹栽培が盛んな日本でも有数の果樹産地です。
また、戦国の雄・武田信玄公の菩提寺として知られる恵林寺、ぶどう発祥伝説の国宝大善寺、江戸時代に甘草を栽培していたことから、甘草屋敷として親しまれている旧高野家住宅など、歴史と文化に彩られた地域でもあります。
東京から 100km 圏内。電車でも車でも約 90 分あれば来ることができる山梨県甲州市。
『甲州らいふ』では、甲州市のまち並みや人々の想いを伝えていきます。甲州市に来たことがある人も、今から知って来る人も、ありのままの甲州市を感じて、そこから自分ならではの「わたしと甲州市」を見つけてください。

甲州市の四季を感じる、楽しむ。

春

4月12日	恵林寺信玄公忌「しんげんさん」
4月中旬	大菩薩山開き「介山祭」
4月18日	向嶽寺秋葉神社大祭「あきやさん」
4月29日	放光寺大黒天祭り
4月第4日曜日	甲州市ふるさと武田勝頼公まつり

5月8日　大善寺 藤切り祭り（関東三大奇祭）

約1300年前の行者の大蛇退治に由来します。5メートルの高さから切り落される蛇を模した縁起物の藤つるを巡る激しい奪い合いは必見です。

5月中旬	大菩薩トレッキング「新緑編」

1月14日	藤木道祖神太鼓乗り
1月中旬	田野十二神楽（県指定無形文化財）
1月中旬	一之瀬高橋「春駒」（県指定無形文化財）

2月11日～4月18日　ひな飾りと桃の花まつり

早春の訪れとともに、春花が咲き誇る季節にかけて重要文化財「甘草屋敷」を彩るひな飾り。江戸・明治・大正・昭和時代のひな人形や、つるし雛がところ狭しと並ぶ様子は圧巻です。

夏

6月30日　菅田天神社 禊（みそぎ）祭り

茅の輪をくぐると身が清められ、暑い夏を無事に越すことができるとされることから「夏越祭り」とも言われています。
※形代（かたしろ）…紙を人形に切ったもの。

9月中秋の名月	塩山温泉祭り

10月第1土曜日　甲州市 かつぬまぶどうまつり

ぶどうの収穫もピークを過ぎたころ、豊作への感謝として開催されるぶどうまつり。爽やかな秋空のもと、来場者にはぶどうやワインが振舞われ多くの観光客で賑わいます。

10月上旬	大菩薩トレッキング「紅葉編」
10月第3日曜日	甲州フルーツマラソン大会
10月第4日曜日	甲州市およっちょい祭り
11月上旬	かつぬま新酒ワインまつり
11月上旬	武田陣中ほうとう祭り

冬

秋

現地で取材をしているのは…

山梨県立大学プロジェクトチーム

「甲州らいふ♪ つたえ隊」

みなさんは甲州市といえば何を思い浮かべますか？ ぶどうやワインだけをイメージする方が多いのでは？しかし、実際には他にもたくさんの魅力に溢れています。この無料情報誌「甲州らいふ」では、私たち「甲州らいふ♪つたえ隊」が発見した甲州市の魅力を発信していきます。甲州市を知っている人、知らない人。移住を考えている人、そうでない人。この情報誌を読んだ色々な人に魅力を伝えられたら嬉しいです。皆さん、これを読んでぜひ一度、甲州市に来てみてはいかがでしょうか？

公立大学法人　山梨県立大学　http:// www.yamanashi-ken.ac.jp

発行元：甲州市役所 政策秘書課　**制作／取材サポート：**BEEK DESIGN

Interview
「わたしと甲州市。」
プロトレイルランナー
小川壮太

プロトレイルランナー　小川壮太さん

1977 年生まれ、甲州市出身。岡山国体の山岳競技代表を機にトレイルランニングの世界へ。小学校の教師から 2015 年にプロ転向。転向後の初戦となった王滝村「トップオブザトレイルランナー 50k in JAPAN」で優勝を果たす。2018 年は、日本山岳スキー日本選手権優勝、台湾シーランウルトラ 100km 優勝、FORESTRAIL 新庄ー蒜山 72km 優勝など。チーム HOKA 所属 。陸上競技、スキー競技、山岳競技において国体で活躍した経歴をもつ。2016 年スカイランニング世界ランキング 5 位、スカイランニング世界選手権および山岳スキー世界選手権の現役日本代表。日本では数少ない稀有なプロトレイルランナー。

日本だけでなく、世界にも名を轟かせているプロトレイルランナー、小川壮太さん。現在も多くの人にトレイルランニングや甲州市を知ってもらおうと、地元・甲州市で活動しています。今回は観光大使も務める小川さんにトレイルランニングを始めるきっかけや甲州アルプスオートルートチャレンジに対する想い、甲州市の魅力などをお聞きしました。

トレイルランニングとは

山道のような舗装されていない道を走る競技の 1 つ。

甲州アルプスオートルートチャレンジ

小川壮太さんが実行委員長を務める山岳縦走競技の大会。2017 年に初めて開催された。開催には甲州アルプスオートルートチャレンジ実行委員会のほか甲州市、甲州市教育委員会、甲州大菩薩ネルチャークラブが関わっている。オート (67km)、リリー (50km)、マロニエ (28km) と距離別に 3 つのコースが設定されており、甲州市内の山道を参加者が駆け巡る。

Reporterは…

鶴田有紀

川﨑かな子

川﨑　小川さんはいつトレイルランニングを知ったのですか。

小川　もともと陸上競技の練習として山を走っていました。以前、国体競技に山岳縦走競技というものがありました。17kg の荷物を背負って 3 人 1 組で行う競技です。当時、僕は陸上競技と富士登山競争（富士吉田市役所から富士山頂まで走る大会）をしていて、山にも適性がありました。そこで山岳縦走競技の監督から声をかけていただき、県代表として出場しました。そのあたりから実際に山で走ったり、興味を持ったりし始めました。

鶴田　トレイルランニングの魅力は何ですか。

小川　山は走れば走るほど景色が変わっていきます。日常生活では見ることのできない景色を見ることが魅力的ですね。山頂まで登る達成感であったり、下ってくる安堵感であったり、気持ちのリフレッシュになるのも魅力の 1 つです。

川﨑　小川さんは幼いころから山が好きだったのですか。

小川　そうですね。小川家は春になれば山菜を採りに行ったり、夏になれば沢登りをしてヤマメやイワナを釣ったり、秋はきのこを採りに行ったり、冬はスキーをしたり、1 年を通して山に寄り添った生活をしていました。家族みんな山の恩恵にあずかって生活するのが好きだったので家族の影響がとても大きいです。だから小学生のころ、ファミリーコンピューターが流行り始めましたが、どちらかといえば僕の遊び場は塩ノ山のような里山でした。虫捕りや秘密基地づくりのような楽しい思い出があります。風が強くて怖い思いをしたこともあります。そういう経験を幼いころにしていたからこそ、山が好きだという想いは心にありました。

鶴田　プロのトレイルランナーになる前は教員をされていたのですね。どういったことを教員時代に感じましたか。

小川　小学校の遠足など教育のカリキュラムは変わってきています。僕は塩山北小学校出身なのですが、当時は大菩薩の登山遠足や林間学校などがありました。でもそういった行事って雨が降ったら延期しないといけないじゃないですか。今の教育現場ってすごく忙しいので、順延日をとるのが難しいんです。だから今だと雨が降っても室内で何かできるような行き先を考えています。実際に僕も教員時代、そんなことを考えながら計画していました。最近だと世間が物騒になったり、山が荒れて野生動物が増えたりして子どもを山で遊ばせることができない状況になっています。社会科の授業で自分の地域について勉強するのですが、実際に地域の山に行ったことがある児童の数は少なくて山の景色や達成感を知ることがとても特殊なことになったのだと教員になって感じました。

川﨑　甲州アルプスオートルートチャレンジの実行委員長をされていますが、このイベントを立ち上げるきっかけを教えてください。

小川　このイベントには様々な想いがあるのですが、一番は山が好きであることですね。教員を辞めてプロになるにあ

たって、国内外の大会で上位を目指すのはもちろんなのですが、山で飯を食わせてもらっている身として今の荒れた山の状況を打破して山に行っても安全に帰ってこられるような奉仕活動をしたいと思いました。

鶴田　2017年にイベントを開催するまで、準備にどれくらい時間がかかったのですか。

小川　2015年にプロトレイルランナーになる前からこつこつ準備していましたね。安全面の確保、エスケープルート(救助に使用する経路。5km毎ごとに等間隔で設置する)の整備に5年かかりました。一個人の想いだけではできないところもあるので、県、市、行政を巻き込んでやってきました。まずトレイルランニングはどういう競技か、知ってもらうことからスタートして、僕はトレイルランのコーチもやっているので、講習会やセミナーなどで山のルール・マナーの周知徹底も同時進行でやっていました。もともと登山家で山登りをやっている人は山の暗黙の了解を知っています。しかしトレイルランニングはマラソンをやっていた人が始めることが多く、マラソンが一分一秒を競う性質上、山道に紙コップやエネルギーゼリーのゴミを捨てたり、登山者が前にいても何も言わずに先を越したりする人も一部います。例えばエネルギーゼリーの甘い匂いは熊や猪といった人間に危害を与えかねない野生動物を引き寄せてしまい、人間がケガを負ってしまったら、その野生動物が駆除されてしまいます。登山荷物の多いなか、高齢者を何も言わずに追い越したら、追い越された人が驚いて道から転落してしまうかもしれません。そういったリスクや事故の可能性などには気付きにくいので、初心者の方には山のルール・マナーを徹底して教えています。道の整備なども実行委員会自らと有志を募ってやります。もちろん僕も時間があれば自分で山に入って木を切ったり草を刈ったりしますよ。

鶴田　昨年度はイベントにどのくらいの人が参加されたのですか。

小川　260名の方が参加し、そのほかに150名の方がボランティアとして参加してくれました。

川﨑　イベントを運営するにあたって街にどのような影響を与えていきたいですか。魅力も含め教えてください。

小川　この大会をやるにあたって街にお金が入る仕組みを作っていきたいです。参加者には大会前日に泊まって飲食してもらって、大会があることによって街に人が集まることを印象づけていきたいです。それがないと大会の認知度が上がらないので。やっぱり街全体で盛り上げるスタイルが必要だと思います。僕らだけで20年〜30年続けるのは無理なので、この大会を知ってて活動に協力してくれる人が出てくれば、次世代も大会は存続していくし、今までの観光以外にも来る人は増えます。それとトレイルランニングは道を迷わずにゴールまで行くことが大前提なので、みんな試走に来るんですよ。だいたいひとり2、3回に分けて67kmのコース(オート)を走るので、甲州市に足を運ぶ回数が増えます。大会の規模はロードランニングほど大きくしなくても経済効果は年間を通じて出すことができる、じわじわ街に効果を出すイベントになっていけば面白いと思います。この大会は国内でいちばん難関だと思います。こんなに厳しい山域でやるのは他にはないですね。甲州アルプスの累積獲得標高は4600kmで富士山よりも高いです。ハードルの高い大会ですが、参加者枠がすぐ埋まったんですよね。世界戦に出ている方もエントリーしていて、普段会うことのできないような有名なスポーツ選手が甲州市に集まるので、“やる”だけでなく“観る”スポーツとしても魅力があり面白いと思いますね。

川﨑　甲州市でイベントを行っていくうえで今後必要になっていくことは何だと思いますか。

小川　甲州市の大菩薩や甲州アルプスは登山客の多いエリアなので、責任を持ってその部分を維持管理していくことが必要になると思います。地域の人の中には山に対する興味関心がなく、イベントの必要性を問う人もいるかもしれません。登山道や里山は日本全体で消滅傾向にあります。でも甲州アルプスオートルートチャレンジなどイベントがあることによって登山道の維持・管理ができ、さらに地域の活気へとつながれば、だんだん登山道や里山についての理解が深まっていくんじゃないかと思います。

鶴田　最後に、自然の魅力が多い甲州市へ移住希望する方に向けたメッセージをお願いします。

小川　甲州市の約7割は森林地帯ということで自然との距離感はとても近いので、都会の喧騒に疲れた人にとっては、癒されるエリアだと思うんですよね。もう一度人間本来の生活を振り返るという部分でもすごくよい環境だと思います。自然が好きな方であればぜひ甲州市に来てほしいですね。特に“食”の部分に関しては自然環境の豊かな甲州市だからこそ、果物や山菜などを通して季節を感じることができます。都内へのアクセスもよい中で、最も自然を感じられる場所は甲州市だと思いますね。

Editor's note 編集後記

（鶴田）実は小川さんは小学校時代の恩師でした。プロアスリートとしてお会いするのは初めてだったのでとても緊張しましたが、ユーモアを交えながら話してくれたので、とても話しやすかったです。話を聞けば聞くほど甲州市や自然に対する強い想いを感じました。特に甲州アルプスオートルートチャレンジのコース作り。ボランティアさんと時間の合間を縫って自らコースを作りに行っていると聞いて驚きました！

（川﨑）小川さんは学生時代から山岳競技やスキーをしており、年末年始に家にいたことが13歳から30歳頃までなかったそうです。自然が本当に大好きな方だと思いました。イベント運営では山の自然を知ってもらうことと同時に山のマナーの周知についても徹底しており、人間と自然のつきあい方についても考えさせられる重要な機会だと思いました。

甲州市 ワイナリー探訪

kashu city winery report

甲州市には実に多くのワイナリーがあります。醸造家の日々の営み、この土地への想いを聞きに、学生たちと一緒に訪れました。

vol.7 甲斐ワイナリー株式会社

Reporterは…

佐塚玲衣

●山梨県甲州市塩山下於曽910
営業時間 9:00〜18：00
木曜定休（祝日の場合は営業）
TEL: 0553-32-2032
http://www.kaiwinery.com
工場見学：10名を超える場合は要予約

甲斐ワイナリーの前身は、天保5年(1834年)に始まった日本酒の醸造会社です。昭和36年(1961年)に果実酒の醸造免許を取得し、昭和61年(1986年)に甲斐ワイナリー株式会社が設立されました。現在は、風間敬夫さん夫婦、息子の聡一郎さん夫婦、従業員3人のあわせて7人でワイナリーを営んでいます。江戸時代から残る国登録有形文化財の蔵屋敷には、ワインショップとカフェがあり、甲斐ワイナリーのワインを求め、多くの方が訪れます。今回は、代表取締役社長の風間敬夫さんと息子の聡一郎さんにお話を聞きました。

佐塚　甲斐ワイナリーさんのワインづくりのこだわりを教えてください。

風間敬夫さん(以下、敬夫)　国産のワインというのは、日本人の口に合うものでなければいけないと思っています。日本の風土、空気、風などに合うワインをつくることを大切にしています。

佐塚　目指すワインをつくるうえで、大変なところは何ですか。

敬夫　白ワインはほとんど甲州種のぶどうでつくっているのですが、赤ワインはメルローやバルベーラという品種でつくっています。この辺ではベリーAという品種がたくさん採れるのですが、私がどうも好きになれないので(笑)。その赤ワインに使うぶどうが足りないことが大変と言えば大変です。

佐塚　そのぶどうは自社の畑でつくっているものなんですか。

敬夫　バルベーラは全てうちでつくったものです。メルローは自社のものと近所の畑で採れたものを使っています。自社の畑は、息子がフランスから帰ってきてすぐに、耕作放棄地のようなところを開墾するところから少しずつ広げて、今では1.3ヘクタールの畑でぶどうを栽培しています。

佐塚　ワインづくりの魅力を教えてください。

敬夫　一年間ずっとやってきて、おいしいワインが出来上がったとき、喜びを感じますね。自分の思いどおりのワインができたときは、やっぱりうれしいものです。

佐塚　一年間につくるワインの量はどれくらいですか。その生産量はどう決めているのですか。

敬夫　720mlのものを35,000本です。ワインが売れなければ仕方がないので確実に売れる量を考えつくっています。材料が手に入らないとできませんし、自分たちのできる範囲でやっています。

佐塚　甲斐ワイナリーのワインの特徴を教えてください。

敬夫　白ワインは甲州種がメインです。シュールリーという「おり」のうまみを出す製法のワインもつくっています。私の若いころは「おり」が沈殿したらすぐに分離しないとだめというのが常識でした。ところが息子がどうしてもその「おり」のうまみを出すシュールリーをつくりたいと言ったので、一度つくってみました。出来たものを飲んでみるとこれが結構おいしくて。コンクールに出すとそればっかり賞取るようになっちゃいました(笑)。それからは、ワインづくりは息子に全て任せることにしました。

佐塚　山梨のワインは海外でも評価が高く、かなり人気があるというイメージがあるのですが、範囲を広げればもっと売れるのではないかという考えはありますか。

敬夫　どうでしょうね。数量的には伸びていて手堅くやっているので現状でいいかなと思います。例えば一か所から何千本という注文を受けると、そこからの注文がなくなったらダメになってしまいます。ですからなるべくたくさんのお客さんに少しずつ買ってもらうようにしています。問屋や飲食店に卸すよりは直接お客さんに買ってもらう方が利益率も高いですしね。

佐塚　ワイナリーがまわりにたくさんあることについてどう思われますか。

敬夫　それぞれみんなで助け合っているし、技術も独り占めするのではなく共有する関係はできていますね。息子は同じ世代のワイナリーの跡取りといっしょに勉強会を開いたりしているようです。

佐塚　では、甲州市についてお聞きします。長年住んでいる甲州市の魅力はどんなところだと思いますか。

敬夫　気候は厳しいところがありますが、静かで、天災もほとんどありません。東京行くにも1時間ちょっと、ゴルフ場まで6分(笑)。非常に住みやすくて、いいところですよ。

佐塚　最後に甲州市に移住を考えている人へのメッセージをお願いします。

敬夫　住めば都と言いますが、そうなるまでが長いです。女房も東京から嫁に来たころ、ある日泣いていると思ったら「夜が真っ暗で怖いから」と言っていましたね。あとは生活の基盤を甲州市に移そうとしているなら、まず仕事がなければだめですよね。移住先でもしっかりできる仕事があるというのが前提だと思うんです。田舎に住むというのはいいところも多いですが、田舎が好きだからだけじゃ厳しいのかなと思います。

甲斐ワイナリー　風間敬夫さん

東京農業大学醸造科でその当時家業であった日本酒の醸造を学び、卒業後マンズワインに就職。父・敬一さんが亡くなったことをきっかけに、会社を継ぐ。甲斐ワイナリー創業後は、奥様と二人三脚で会社を守ってきた。現在は、息子の聡一郎さんのサポート役として活躍している。

醸造を担当する敬夫さんの息子さん、聡一郎さんにもお話を聞きました。

佐塚　ワインの醸造家以外の仕事をしようと考えたことはありませんでしたか。

風間聡一郎さん（以下、聡一郎）　家業としてワイナリーの仕事が身近にあったので、大学に行っている頃には、他の道は考えていませんでした。

佐塚　ワインをつくるワイナリーの仕事は楽しいですか。

聡一郎　楽しいです。でもとても大変です。朝も早いし、忙しい時期は満月の明るさで目が覚めるほどです。早く畑に行かなくちゃって（笑）。でもやっぱり自然と付き合う大変さが一番大きいと思いますね。

佐塚　バルベーラを使ったワインはいつからつくられているのですか。

聡一郎　８～９年前ですかね。私が帰ってきたころの赤ワインは、海外品種のぶどうをブレンドしてつくっていました。

佐塚　なぜベリーＡではなく、バルベーラを選んだのですか。

聡一郎　ベリーＡを使ったおいしいワインは既に他のワイナリーにもありました。あとは、私があんまりベリーＡが好きじゃなかったんです（笑）。どうせ新しくつくるなら自分の好きなものでつくるのがスマートかなと思って。でも、バルベーラを育てるのは難しいです。糖度も酸度もバッチリなのに、色が思うようにつかないんです。

佐塚　味がよいだけではだめなのですか。

聡一郎　ワインは味だけではだめなんです。ぶどうの皮の色が赤ワインには重要なので、うまく色づかなかったバルベーラはロゼに回しています。

佐塚　今後、挑戦していきたいことはありますか。

聡一郎　ゆくゆくはぶどう全量を自社の畑でつくったものにしたいです。今の３倍やらないといけないのです。今の時点でやったら身がもたないので（笑）。次の世代、またその次の世代でできるように、今は土台をしっかりつくっていきたいです。

Editor's note 編集後記

（佐塚）風間さん父子にお話を聞いて、長い歴史の中で変化と挑戦を続け、今の甲斐ワイナリーがあることを実感しました。こだわりを持ち、一本一本丁寧にワインをつくっていることがよくわかる取材でした。次に伺うときは、素敵なカフェでワインを頂きたいです！

甲斐ワイナリー　風間聡一郎さん

東京農業大学卒業後、フランス・ブルゴーニュでワイン造りを学んだ後、東京のワイン専門店で３年間修行。現在、甲斐ワイナリーの栽培・醸造担当としてワインづくりを担っている。

pick UP koshulife

WINE INFORMATION

ワインを知ろう！

甲州市といえばワイン。ワインに関連するイベントがこれからたくさんあります。

市内のワイナリーイベント

出典：各ワイナリーの HP

イベント名	日程	ワイナリー
ロリアンワイン祭り	９月中旬	白百合醸造
マンズワイン勝沼ワイナリー感謝祭「ワインまつり」	11 月３日	マンズワイン
奥野田ワインガーデン	７月上旬	奥野田葡萄酒
ルバイヤートワイナリーコンサート蔵コン	４月中旬	丸藤葡萄酒

市内のワイン関連イベント

出典：甲州市役所観光商工課 ワイン・商工振興室

イベント名	日程
甲州市かつぬまぶどうまつり	10 月第１土曜
甲州フルーツマラソン大会	10 月第３日曜
かつぬま新酒ワインまつり	11 月３日
ワインツーリズムやまなし	2018 年 11 月 17・18 日
塩ノ山ワインフェス	４月中旬

※ここで紹介するイベントは、申し込みや定員制、参加料が必要なものが含まれています。参加を検討される場合は、必ず事前にご確認ください。

甲州市のワインが飲めるおすすめレストラン

ショップ名	住所	電話番号
古壺（甲斐ワイナリー併設）	山梨県甲州市塩山下於曽 910	0553-32-2032
レストラン鳥居平	山梨県甲州市勝沼町菱山 4729	0553-44-3080
甲州完熟屋	山梨県甲州市塩山赤尾 671	0553-39-9651
レストランシャンモリ	山梨県甲州市勝沼町下岩崎 1453	0553-44-5556
エリソン・ダン・ジュール	山梨県甲州市勝沼町中原 5288–3	0553-39-8830
風	山梨県甲州市勝沼町下岩崎 2171	0553-44-3325
勝沼食堂パパソロッテ	山梨県甲州市勝沼町菱山 3577-6	0553-39-8763
ぶどうの丘 展望ワインレストラン	山梨県甲州市勝沼町菱山 5093 ぶどうの丘	0553-44-2111
カフェ カーサ・ダ・ノーマ	山梨県甲州市勝沼町勝沼 3181	0553-44-5233
ビストロ・ミル・プランタン	山梨県甲州市勝沼町下岩崎 2097-1	0553-39-8245

甲州市のワインを数多く揃えている

ぶどうの丘

甲州市内のワイナリーのワインのみを約 200 銘柄取り揃えています。地下のワインカーブでタートヴァンを購入し、ソムリエ気分でワインの試飲ができます。お気に入りのワインを見つけてみては。

住所：甲州市勝沼町菱山 5093
電話：0553-44-2111

甲州市の暮らしの中に根付いた、歴史や文化、自然を見つけよう！

FiND iT! KOSHU CiTY

NATURE 自然

どの季節でも
自然が美しい場所

総面積の約８割を山林が占める甲州市は、中里介山の長編小説「大菩薩峠」で有名な大菩薩をはじめ、大蔵高丸などの山々を有しています。それぞれの頂上から望む富士山や南アルプス等の絶景は、年間を通じて多くの登山客を魅了しています。また、ツツジの群生地である三窪高原や、春から秋にかけて多彩な花が咲き誇る湯の沢峠、四季折々に表情を楽しめる日川渓谷「竜門峡」など、豊かな自然に囲まれています。さらに、ぶどうやもも等の果樹園が里山に広がる独特の風景は、個性豊かな農村景観として親しまれています。

果実

フルーツ王国
甲州市

FRUiT

甲州市は「フルーツ王国やまなし」を代表する果物の生産地です。いちご、さくらんぼ、もも、すもも、ぶどう、柿などの果樹栽培を中心とした農業が基幹産業であり、季節に応じたフルーツ狩りが楽しめる日本有数の果樹産地です。また、日本のワイン産業発祥地・甲州市産ワインの品質の高さは国内外で高く評価されていて、その優しい香りと味わいは多くのワイン愛好家を魅了しています。市内には150ヶ所を超える観光農園や、約40ヶ所のワイナリーがあり、様々な味覚を楽しみに毎年多くの観光客が訪れています。

歴史文化

知れば知るほど
深みのあるまち

甲州市には、甲斐の国を治めた武田家ゆかりの神社仏閣が多数存在しています。信玄公の菩提寺である恵林寺をはじめ、武田勝頼公の菩提寺の景徳院、日本最古の「日の丸の御旗」などを有する雲峰寺など、すべてが貴重な歴史文化財であり、武田家と甲州市のゆかり深さを感じることができます。また、国内のワイン産業にまつわる産業遺産等なども数多く点在し、甲州街道など悠久の時とともに、いにしえの文化と先人たちの足跡が今に残る歴史に彩られたまちです。

HiSTORY & CULTURE

暮らし

LiFESTYLE

暮らしやすさは
支え合う心から

「地域ぐるみで支え合う心」が暮らしのなかに息づいている甲州市。子育て中のお母さんやお父さんには、充実した子育て支援サービス。高齢のみなさんには、健康で快適に暮らす生活支援。若者の仲間が楽しく交流できる環境づくりなど、誰もが満足できる「安心」があります。「甲州市で子どもを産み、育てる」「甲州市に住んでよかった」などなど、大きな笑顔があふれ、活力に満ちた「暮らし」が甲州市にはあります。

The shop which feels KOSHU. ―甲州市を感じるお店―

パンテーブル

2005年にオープンしたパンテーブルはこぢんまりとして可愛らしい、あたたかな雰囲気を持ったパン屋さんです。天然酵母にこだわったパンは地元住民や観光客にも人気で、たくさんのお客さんが訪れます。小学生のときにパン屋さんになりたかったという店主の奥山美紀さん。天然酵母のパンに対するこだわりや地域への想いについてお聞きしました。

Reporterは…

氣賀澤望

佐塚玲衣

鶴田有紀

川﨑かな子

パンテーブル
●山梨県甲州市勝沼町休息1360
営業時間：10:00～17:00
TEL：0553-44-5488
日曜・月曜定休
https://twitter.com/pan_table

「他の料理といっしょに、パンも食卓に」

氣賀澤　勝沼でパン屋さんを始められたきっかけを教えてください。

店主奥山さん（以下、奥山）　生まれ育った場所ですし、ぶどうやワインの歴史のある街で、観光客の方がよく訪れるのはわかっていたので、観光客の方が楽しめる場所を作れたらということで勝沼にしました。最初父は店を開くことに反対していました。店をどこにするかもいろいろ考え、最初は勝沼朝市に出店していました。そこでいろんなことを体験させてもらって、地域の方の感想が父にも届き、許しがおりたんです。だから勝沼朝市には本当に感謝していて、お店を始めてからも数年間は出品させてもらっていました。でも休みを利用しての出店で大変な部分もあったし、朝市はお店を始めたい人のきっかけになる場だからいろんな人に体験してもらいたいと思って朝市での出店はやめました。

鶴田　やりがいを感じるのはどんなところですか。

奥山　お客さんが喜んでくれることですね。「おいしい」と言ってもらえたり、リピーターの方や遠くから寄ってくださる方の存在を感じたりするとやっぱりパン屋をやっていてよかったなと思います。

佐塚　遠くからのリピーターの方もいらっしゃるんですね。

奥山　そうですね。県外から来てワインと一緒にパンもお買い求めていただいています。

気賀澤　パンテーブルさんでは、どのようなこだわりのパンを作っていらっしゃるのですか。

奥山　食卓にパンをのせてもらいたい、“テーブルにパンを”ということで、お店の名前が「パンテーブル」なんです。他の料理といっしょにパンも、というイメージで名づけました。パンも味わいのあるものがよいと思ったので天然酵母にこだわっています。材料もなるべく安心安全な国産小麦を使用しています。うちのパンは噛みしめて食べる感じなのでワインのおつまみにも合うんですよ。最近はお子さんで卵や牛乳アレルギーのある方も多いですよね。うちのパンは卵や牛乳を使っていません。卵や牛乳を使用すると柔らかい食感にはなるんですけどパンを噛んで味わってほしいので。面白いことに、パンを買っていただく親御さんは、子どもにはかたいからパンをあげないという人と、子どもだからこそしっかり噛んだほうがよいという人に分かれるんですよね。ほかのパン屋さんで売っている惣菜パンや菓子パンも好きなんですけど、シンプルで味わいのあるパンを作っていくことを志しています。

鶴田　酵母でもパンの味は変わるのですか？

奥山　レーズン酵母を使用しています。フルーティーな味わいがあります。一般的なイースト菌が好きな人はいるけれど、鼻にツーンとする香りがあるんです。他にも白神こだま酵母（白神山地の土壌で採取した菌を培養したもの）を使うことによって食感がソフトになったりフルーティーな味わいになったりします。それも使用しています。

佐塚　どちらかというとフルーティーなこだわりのパンが多い感じですね。

奥山　甘みは、そんなに砂糖が多めではないんですけど、レーズンの甘みを感じたりします。

川﨑　パンは何種類作られているんですか。イチオシのパンはどれですか。

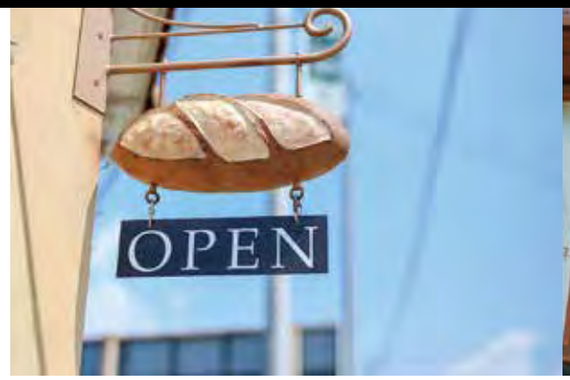
奥山　パンはだいたい30種類くらいです。イチオシを選ぶのは難しいですが、山梨カンパーニュでしょうか。山梨の小麦粉を50％以上使っていて、サンドイッチにしてもおいしいかなと思います。ワインのおつまみとしてチーズをのせてもおいしいですし。あと人気なのは”Ajiwai”というレーズンやくるみやイチジクを入れて焼き上げたパンです。

氣賀澤　次に甲州市について伺います。甲州市のよさはどのようなところに感じますか。

奥山　自然が豊かで、ワインもぶどうも産地として生産が受け継がれているところが素敵だなと思います。

鶴田　反対に住んでいて不便に感じるところはありますか。

奥山　観光客の方が地域をめぐる手段が少ないとは思います。でも、県外の人は歩くのが好きだし歩いて感じることもあるから、そういう人にとってはほどよいのかな。自分が生活する分には食育も子育て支援もしっかりしているから、あ



まり不便だと感じないです。観光客やお年寄りの立場で考えると、ワインツーリズムの時に出ているバス停が土日だけでも使えるといいなと思ったりしますね。

佐塚　そうすれば人の流れがよりよくなりますよね。

奥山　そうだ、あと公園がもう少し整備されて、1か所でもきれいで水遊びとかができるところがあればいいなと思います。勝沼や塩山にも公園はあるけど草がいっぱいでね。観光客の方も時々行くみたいだけど、あれではゆっくり休めないかな。自然に癒されに来た観光客の方がしっかり癒やされるスポットがあればいいなと思いますね。

川﨑　甲州市の奥山さんのまわりの人たちはどのような人が多いのでしょうか。

奥山　まわりは移住者を受け入れる姿勢もあるし、人間関係で悩むこともないです。それに県外から来られた方が、盛り上げてくれているなと感じることもたくさんあって、そういう人たちがすごく好きですね。地元の人はなかなか新しいことにチャレンジする勇気がないけど、移住者の人は発展的なことや楽しいことを取り入れてくださるから朝市にしても盛り上がりますよね。だからもっともっと移住者の受け入れ態勢が整ってほしいと思います。

佐塚　甲州市に来た人にお店を通してどんな影響があればよいと思いますか。

奥山　観光客の立ち寄りスポットの一つになればいいなと思います。それと地元の人たちには、パンを通して食卓に少しでも笑顔を届けたいです。これから先はもっと地元の食材を使っていきたいと思っているんですよ。

氣賀澤　最後に、移住希望の方へメッセージをお願いします。

奥山　自然が好きで、ここで生活していくことに興味がある人に来てほしいですね。自然なり、ワインなり何か興味のあるものが見つかればいいな。だから農業体験やワークショップでいろんな体験をして、人と触れて感じられるものがあればぜひ来てほしいですね。

Editor's note 編集後記

（佐塚） 取材時にもたくさんのお客さんが訪れていました。安心して食べられるおいしいパン、お店の素敵な空間、奥山さんのお人柄…一度食べたら虜になること間違いなしです。私も大好きなパン屋さんになりました。

（氣賀澤） お客様の中にはパンテーブルのパンならアレルギーが出ないという方や、「ここのパンは薬だ！」という方もいて本当にやさしいパンなんだと驚きました。かためのパンが大好きな私もパンテーブルのファンになりました！

（川﨑） 使うのは、国産小麦、自家製レーズン酵母。レジ近くには近くの農家さんが作った新鮮な野菜がカゴに並んでいました。食に対する安心感やこだわりを大切にしてくれるパン屋さんだと思いました。

（鶴田） 木材が多く使われていて、あたかかみのある雰囲気のお店。まさに奥山さんのお人柄そのものでした。取材中にいただいたパン。どれも噛みしめるたびに甘味が感じられ、とてもおいしかったです♪

甲州市の林業

峡東森林組合

みなさん林業というと、どんなイメージが思い浮かびますか？「自然とともに働く仕事」「肉体労働で大変そう」「男性ばかりの職場」など様々あることでしょう。しかし！ 考えてみると林業の具体的な内容について知らないことばかりです。そこで今回、甲州市・山梨市・笛吹市を中心とした森林で活動されている峡東森林組合の方々に取材し知られざる林業のあれこれを伺ってきました！！

Reporterは…

鶴田有紀

川村春乃

新津カンナ

鶴田　林業のことがあまりわかっていないのですが、林業はどのように成り立っているのですか。

名取建美（以下、建美）　木を植えて、ある程度育ったら木を切って売りに出していきます。そして、その利益が地主に戻るようにします。このサイクルこそが林業の仕事です。昔からあった木を切り倒したり、木を大きくするために間引いたり、枝を切って林に光を入れたりすることも含まれます。

鶴田　長い期間かかることなのですね。

建美　そうですね。冬に苗木を育てて、その年の春に植えます。5～6年ほど木の周りの草を刈ります。木が大きく育ち

伐採するまでに45～50年はかかります。

川口　現在はそれぐらいで伐採していますが、本来であれば90～100年くらいを見越して間伐を行なっています。

鶴田　林業に携わることになった経緯を教えてください。

建美　40年ほど前の話になりますが、自分は約3年間、東京でサラリーマンをやっていました。しかし東京が狭苦しく感じて嫌になったので、山梨に戻ってきて自然相手に行う仕事がいいと思いました。お蚕さんもできる家ではなかったですし、仕事として一番手っ取り早かったのが林業でした。

名取成彦（以下、成彦）　私は20年くらい前に東京から来ました。元々東京でサラリーマンをしていて、山梨でも続けていました。しかし体を動かすのが好きなので、デスクワークよりは外で仕事をする方が性に合っていると思い、今年に入って林業に携わるようになりました。

新津　どんな時に苦労を感じますか。

楠　下刈りは苦労しますね。夏の暑い時期に炎天下で作業をしなければならないんです。

川口　下刈りは、木に日光を十分に当てるため邪魔な草を刈る作業のことで、植林から5～6年で行います。植林した木よりも周りの雑草のほうが成長が早く、雑草のせいで日影になってしまうとせっかく植えた木が育たないんです。

新津　苦労も多い中、やりがいも感じますか。

成彦　やりがいを感じるというより今はただ必死です。だけどやっぱり体を動かすことが苦ではないし、性に合ってますからね。デスクワークは雨が降ろうが何をしようが仕事が終わらなければ帰れません。そうすると段々気が滅入ってくるんです。でも林業はずっと体を動かしてるから嫌になることはあまりないです。

川口　森林には水を吸う力があります。それによって洪水などの自然災害から私たちの暮らしを守ることができるんです。だけどそれは植林しただけではだめで、間伐など人間の手が加わることで成り立つものです。人の暮らしを守る手伝いをしているという意味ではやりがいを感じますね。

新津　林業は後継者が不足しているというイメージがあるのですが、実際はどうなんでしょうか。

川口　最近は後継者不足で困っているといったことは、そんなに聞かなくなりました。むしろ林業をやってみたいと思ってくださる方が増えたように感じます。特に若い世代の人や都会から自然に触れたくて来るといったケースが多いですね。

新津　例えば「林業をやりたい！」と来られた人の受け入れは行っているのですか。

川口　峡東森林組合では今のところ受け入れの募集は行っていませんが、林業に挑戦してみたいといった人が来られた場合には、そのニーズに合わせて対応することは可能です。

鶴田　林業から得られることは何ですか。

建美　上り下りをするので体が丈夫になります。あと朝7時に登ってくると、森林浴ができてとてもすがすがしいですね。夏場ですと日中のコンクリートの暑さではなく、自然の中の涼しさを体感できます。

鶴田　林業に携わっていて感じる甲州市の魅力を教えてください。

建美　甲州市は自然豊かで山が多いところです。

成彦　その山が急なんですよね。外から風景として見たときに、その角度というか見晴らしは楽しいと思うんです。

川村　今後林業がどうなってほしいですか。

建美　木材って安いんですよ。僕たちは林業でご飯を食べていかなければならないので、売れる木材を作っていきたいです。そういう考えのもとで作業していれば、自然と山がちゃんと手入れされるから、災害時に雪崩が起きにくくなるとか、私たちの暮らしの安全も守られていくと思います。「林業がすごく儲かる」「サラリーマンよりずっといいぞ」なんて噂になれば林業に携わりたいと思う人が多くなると思うんですけど、現実は厳しいですね。若い人が受け継いで林業を続けていかなければ森林は荒れてしまいますから、行政で金銭的な面も整備してもらって、少しでも林業のメリットを増やすことで後継者が増えていけばよいなと思います。

川口　森林峡東組合にはいませんが、女性で林業に携わる人も増えています。現在は山が成熟してきているので、伐採して木材が売れる時期なんです。林業は手作業の重労働というイメージがあると思いますが、それは昔の話です。今は機械化が進んでいて、重機を操作できれば誰でもできる作業も増えてきているので女性、若者も抵抗なく入ってきてほしいです。

鶴田　最後に甲州市への移住希望者へメッセージをお願いします。

建美　甲州市は店が集積しているので暮らしやすいです。

成彦　道路もちゃんときれいに整備されているんですよね。そこに店ができるからさらに行きやすいんですよ。

建美　あと甲州市は山が多いので林業をやりたい人がいれば、ぜひ峡東森林組合に相談だけでも来てください。さきほども話しましたが、昔みたいにノコギリで木を切るっていう感じではなくて、今は機械があるから女性も若者もやりやすいですよ。

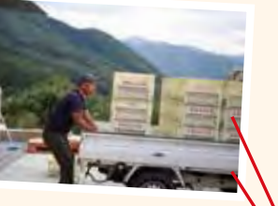
峡東森林組合
●山梨県甲州市塩山赤尾453-1　TEL：0553-33-2901（代）

Editor's note　編集後記

（鶴田） 林業というと、今までは手動のイメージが強く、辛い仕事だと思っていました。しかし初めて今回林業に触れて、機械化が進んでいることや女性が少しずつ増えてきていることなどを知り、取材中ずっと目から鱗が落ちるような話ばかりでした。

（川村） ノコギリで地道に木を切っているというイメージを持っていたので、林業の現場にお邪魔して重機を見た瞬間にイメージとのギャップに驚きました。普段関わることがないけど、私たちが生活するうえでなくてはならない林業を知ることができ、とても貴重な時間でした。

（新津） 森林のなかで取材させて頂いたので、自然を感じられ本当に癒されました。生で現場を見られたり、お話を伺えたりと林業のリアルな姿を感じられたことは勉強になったと思います。これを機に、もっと林業の世界に入り込みたいな～とちょっぴり感じました（笑）。どうしたらできるか考え、実行する力を身につけていきたいです。



甲州市
KOSHU CITY

地域おこし協力隊

甲州市地域おこし協力隊は、甲州市の地域づくりの新たな担い手を育成するとともに、地域に定住してもらうことを目的とした事業です。今年度から３年間、地域おこし協力隊の隊員として活動する３人の紹介をします。

桂川啓太さん

東京都出身。玉宮を活動拠点とし、ワイナリー「98WINEs」でぶどうづくり、ワインづくりの勉強中。

●甲州市地域おこし協力隊に参加するきっかけ…以前働いていた東京の飲食店で、98WINEs代表の平山さんと知り合い、自分も生産者になりたいと相談しました。そこで甲州市地域おこし協力隊のことを知りました。妻がワイン販売の仕事をやっていて、将来的に２人で仕事ができたらいいねと話していたこともあり98WINEsにお世話になることになりました。

●これまでの活動で感じたこと…畑仕事をするようになってまわりの人たちがよく見てくれていると感じます。一人で畑で仕事をしていることが多いのですが、「毎日一人で頑張ってるね」と声を掛けてくれるんです。頑張りが認められて「ここの畑が空いたからやってみない？」と声を掛けていただくこともあります。

●今後の目標・方針…３年後、自分でワイナリーをやりたいです。今は離れて暮らしている妻をこちらに呼んで一緒にやっていきたいです。

●移住者へのメッセージ…東京から１時間ちょっとで来られますし、オープンな人柄の人が多い素敵な場所です。皆さんぜひ来てください。

●甲州市地域おこし協力隊に参加するきっかけ…あるイベントで甲州市地域おこし協力隊１期生である樋山太一さんと出会いました。狩猟して鹿肉をペットフードにしようとアイデアを話したところ、樋山さんがその活動をしていると知り、お世話になりたいと思いました。

●これまでの活動で感じたこと…知り合いの農家さんからいただいたはねだしの桃をかつぬま朝市で提供させてもらいました。県外から来る方がとても喜んでいて、農家さんのはねだしに対する扱い方とは全く違うので、農家さんが思っている以上に桃には価値があると感じました。

檜垣一石さん

大阪府出身。「甲州ローカルベンチャー協議会」に在籍し、猟師をしている兼業農家のもとで農業研修を行うとともに狩猟の勉強中。

●今後の目標・方針…５年後の起業を目標として、狩猟だけでなく、経営の勉強もしています。

●移住者へのメッセージ…あいさつが大事です。大きな声であいさつすることから地域の人に受け入れてもらえます。

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度。

内田亜由美さん

東京都出身。「NPO法人山梨家並保存会」に在籍し、重要伝統的建造物群保存地区の塩山下小田原上条集落を拠点として活動。古民家宿泊施設「もしもしの家」で経営の勉強をしながら、畑で作物づくりを行い、農泊に向けて勉強中。

●甲州市地域おこし協力隊に参加するきっかけ…上条集落へ知り合いに連れてきてもらったときに、景観や家並みがとてもきれいで魅力を感じました。地元の方もあたたかく、ここで働きたいと思いました。甲州市をいろいろな人に知ってもらいたいと思ったのがきっかけです。

●これまでの活動で感じたこと…「もしもしの家」に泊まりに来てくださった方にかつぬま朝市をご案内したり、玉宮フットバスにいらした方が「もしもしの家」や上条集落に見学に来てくださったりというつながりに嬉しさを感じます。景観も素晴らしいです。夕焼けや雨が降ったあとの虹がかかった様子を見ると自然と近い場所にいるんだなと実感します。

●今後の目標・方針…海外にも魅力を知ってもらえるよう上条集落、甲州市を盛り上げていきたいです。地域の特産を活かして農泊を展開していきたいです。

●移住者へのメッセージ…やっぱりあいさつは大事ですし、自分から会いに行く、話しに行くことにしています。すると、外でお茶しているところに呼ばれたり、お盆の時期は餅つきに呼ばれたりして、たった数ヶ月で地域の方たちと話せるようになりました。だから飛び込んでいくことが大事だと思います

KoshuLife News

イベントや新しいお店、施設情報など、甲州市の最新ニュースを甲州らいふ目線でお届けします！

― お試しサテライトオフィスとコワーキングスペース ―

新しい働き方を実践！ シェアオフィス甲州、オープン。

パソコンを開いて、インターネットにつなぎ、クラウド上で仕事をする。それは、時間や場所に縛られない働き方・・・新しい働き方が始まろうとしています。一般的な働き方というと、定時に職場に集まり、多くの同僚と仕事を進める姿があります。一方で、情報化が進み、パソコンやインターネットが発達することで、場所や時間にかかわらず仕事ができるようになりました。特に電話の進化は目覚ましく、携帯電話から一人一台の所持、さらにはスマートフォンとして一人ひとりが携帯パソコンを持って、インターネットにつながる時代が当たり前となりました。

仕事の仕方についても、本社に多くの社員が集まることで効率的な仕事の進め方をしていたものが、パソコンとインターネットを活用することで、より効率的に、そしてグローバルに作業を進めることができるようになり、そのさらに先として、個々の生産性が注目され、多くの仕事を効率的に処理するだけでなく、クリエイティブかつ社会課題をブレイクスルーするようなアイディアや価値創造が注目されています。

また地方創生として、人口減少・人口の東京圏内への集中の課題に直面する中で、人の集まる地域づくりが重要となっています。実際に、移住・定住を考えている方とお話しすると、「自然豊かなまちで暮らしたい」「子育てを充実したい」という話だけでなく、「暮らしていくための仕事、ありますか？」と聞かれます。山梨県内にもいろいろな種類の仕事がありますが、東京圏内の企業が集中しているところと比較すると、かなり選択肢が少なくなってしまうかもしれません。

そのような背景を受けて、お試しサテライトオフィスとコワーキングスペースの機能を持たせた「シェアオフィス甲州」がオープンしました。

サテライトオフィスについては、自然豊かな環境で創造的な仕事を推進すること、東京圏内の本社が被災した際のバックアップ機能などの需要があり、また受け入れ地域としても古民家が素敵なオフィスに生まれ変わることや今までなかった産業のきっかけになるなど、地域活性の仕組みとして期待されています。

また企業だけなく、個人においても「パソコンに向かっているだけで仕事になるの？遊んでいるんじゃない？」というイメージがまだまだあると思いますが、会社や工場に勤める、工事現場や農作業で汗を流す、来客したお客さんにサービスを提供する時間や場所が重要となっていますが、そこに新しい働き方の１つとしてクラウドソーシングという働き方が注目されています。例えば、自社の苦手分野について、得意分野の業者に外部委託することがあると思います。企業の多くは専門会社やフリーランスの方に仕事を直接委託するケースがほとんどですが、今回紹介するクラウドソーシングの場合、企業がクラウド上の管理会社に仕事をあげて、管理会社に登録している個人・団体が自分の能力にあった仕事を選択し、完成品を管理会社に納品し、その納品されたものを管理会社が企業に納品するやり方があります。クラウドの性質上、現物の取り扱いよりも、デジタル化でき情報性の高い仕事が多くなっています。現物や人の顔が見えないことで、実感が沸きにくい部分もありますが、メリットとして、日本だけでなく世界中から仕事が集まる可能性を秘めています。また、自分のライフスタイルに合わせることもでき、例えば子育て中のお母さんが子どものお昼寝など睡眠中の数時間だけ集中的に仕事をすることもできます。パソコンを使った仕事というと、プログラムを書いて…などが連想されますが、簡単な仕事として、文章のデータ打ち込みから、ライター、新商品のテスター＆商品提案などいろいろな仕事が集まっています。なお、いろいろな仕事があると、自分ひとりでは限界があり、そこでステップアップのためにも、ビジネスパートナーを見つけ出すきっかけとして、コワーキングスペースを提供させていただいております。例えばコワーキングスペースで、別々の仕事をしている人たちが、同じ空間を共有することで仲よくなり、「自分は映像が得意」「自分はマーケティング」「自分はデザイン」「こういう知り合いがいて…」などの雑談からそれぞれの特性を活かした新たなプロジェクトが始まり、一人だけではできなかった大きな事業の成功やもしかしたらこのような集まりから地域や日本の課題を解決するアイディアが生まれるかもしれません。

取り組みはまだまだ始まったばかりですが、先進的に取り組むことで、新しい働き方やインターネットを活用した技術を受け入れやすい住民風土を醸成し、日本中から多くの方が甲州市を訪れていただければと思っています。

シェアオフィス甲州　お問い合わせ

TEL：0553-32-5037（甲州市役所・政策秘書課・地域創生推進担当）
seisaku@city.koshu.yamanashi.jp
WEB：https://www.city.koshu.yamanashi.jp/iju/iju/share-office.html

住所：〒409-1316 山梨県甲州市勝沼町勝沼756－1
アクセス：中央道勝沼インターより、車で５分。JR勝沼ぶどう郷駅より、車で７分。ローソン甲州勝沼店２階となります。

学生がいく！

Let's Go!

大学生の視点で甲州市を歩いて、感じて、伝える

ぐるり、甲州旅

Reporterは…

3人の学生で文章を書き、写真を撮って、紙面構成・デザインも自分たちで考えて作りました！

川崎かなこ

川村春乃

新津カンナ

甲州市の夏を楽しむ！！

まだまだ夏の暑さ真っ盛りの８月。私たち３人は大和町にある日川渓谷レジャーセンターに行きました。日川渓谷レジャーセンターはバーベキュー、釣りが体験できる施設です。バンガローがあり、宿泊もできます。多くの家族連れが釣りやバーベキューを楽しむ中、私たちもニジマスのつかみどりを体験しました。さらに甲州市に住む従業員の三枝健治さんにお話をうかがいました。

▲慎重にニジマスに近づきます

▲やっとの思いで捕まえました!!

▲自分たちでニジマスをさばきます

2018年８月16日、私たちは大和町にある日川渓谷レジャーセンターへ行きました。午前10時に到着。気温は24℃。涼しく、過ごしやすい気候でした。私たちはスタッフの三枝さんから説明を受け、さっそくニジマスのつかみ取り体験をすることにしました。つかみどり用の池に放流する魚の数は事前に指定できます。私たちは６匹にしました。「小学生の時もそんな時間かからずに獲れたし」と、つかみ取り経験のある川村と川崎が実際にやってみました。ところが、思いのほか悪戦苦闘。なかなか魚は捕ってはくれません。30分経過して１匹も獲れず絶望していました。すると「手伝っても大丈夫？」と通りすがったお母さんと娘さんが助けてくれました。そのおかげで、すべての魚を獲ることができました。１時間かかりました。つかみ取りにかかる時間の平均は15～30分だそうです。レジャーセンターではつかみ取りしたニジマスを実際にさばいて焼くことができます。ふだんスーパーで売られている魚は切り身であることが多く、なかなか実際にさばく機会はありません。ドキドキしながらさばきました。焼いたニジマスはホクホクとおいしかったです。命に感謝しながらいただきました。

手伝ってくれたお母さんをはじめ、レジャーセンターには家族で来ている方が多く見受けられました。ある女性は千葉県から来ていました。ご主人が釣りが好きであり、お子さんにも川遊びをさせたい、そして涼しいところという点で日川渓谷は最適だったそうです。他にも団体でバーベキューをしている姿もあり、自然の中で時間を忘れてのんびり楽しく過ごせるのは、現代の中では貴重な時間になっているのかな、とふと思いました。

スタッフ三枝健治さんにインタビュー

――利用客はどのような人が多いのですか。

三枝　夏場は県内の育成会や子供クラブといった団体の利用が多く、釣りやつかみ取りをして獲った魚もバーベキューで楽しまれる方が多いですね。お盆の週は家族連れが多く、東京の三多摩地方のお客様もよくいらっしゃいます。また、お仕事のお父さん、お母さんに代わってお孫さんを連れたお客様もよく見うけられます。

――施設のアピールポイントはどこですか。

三枝　やっぱり甲府周辺と比較すると涼しいところですね。吹く風も違うと思うんで、その中で釣りやバーベキューができるところでしょうか。ここ（日川渓谷レジャーセンター）が頑張っていろいろな人が来ていただける施設であれたらいいなと思います。県内の人でもこんなところ知らなかったという人たちがけっこういるので、もっと多くの人に知ってもらいたいです。

――甲州市の魅力を教えてください。

三枝　武田家ゆかりの地であるとともに、山々や渓谷など自然がたくさんあることですかね。

◀焼きあがるまで15分
待ち遠しい…！

前号の甲州らいふを置かせてもらいました。ありがとうございます！ちなみに三枝さんは甲州らいふを毎号読んでくださっているそうです。感謝感激！

日川渓谷レジャーセンターでは、徐々に葉が紅く色づいてくる11月上旬に「武田陣中ほうとう祭り」が開催されます。ほうとうとは武田信玄の陣中食（戦国時代に食されたカロリーと栄養を手早く摂取することのできる食事）であり、山梨の伝統的な郷土料理です。地元で採れたきのこや旬の野菜がたっぷり入ったほうとうは食べ放題（※有料）で、食欲の秋にはぴったりのイベントです。ほかには特産品の出店や、親子マス釣り体験、甲斐大和天目山勝頼公太鼓による演奏、大和町の名所をまわるフットバスも行われます。当日は甲斐大和駅から無料送迎バスも運行されます。ぜひ行ってみてはいかがでしょうか。

住所：〒409-1202 甲州市大和町田野３番地　　電話：0553-48-2455　　休業日：毎週水曜日（祝祭日の場合は営業）
体験：バーベキュー※要予約、マス釣り、マスつかみどり、宿泊（バンガロー※要予約）

Editor's note 編集後記

（川崎） ふだんレジャーに縁がないので、ひさびさにレジャー気分を味わえて楽しかったです。外にいてもそれほど汗をかかない甲斐大和は過ごしやすく快適でした。今後県内の涼みスポット有力候補になること間違いなしです！

（川村） きれいな澄んだ空気の中、マスのつかみどりをしてその場でさばいて焼いて食べて…なんだか童心を取り戻せた時間でした。家族、友達、先輩、後輩、誰と行っても楽しいです（もちろん１人でも！）。夏の青々とした木々もよかったのですが、紅葉や桜の時期もきっと素敵だと思います！

（新津） とにかく自然豊かで森林浴や川釣り、そしてBBQまで様々な体験ができてしまう日川渓谷レジャーセンターに驚きました！！　日常で味わえない癒やしの空間が本当に心地よくて、また遊びに行きたくなりました～。

To visit for the first time

初めて巡る 甲州市

koshulife

都心から約90分。

四季で様々な表情を持つ山梨県甲州市へ。

『甲州らいふ♪つたえ隊』に新たに参加した須田真琴、田中大輝、藤本かおりです。この4月に県外から山梨に来ました。夏休みに入った8月16日、甲州市を初めて訪れました。その感想をレポートします。甲州市はぶどうや桃の栽培が盛んで、自然が豊かなところだとは聞いていたのですが、我々の想像をはるかに超えるパワーを感じました。

自分たちで考えた旅のしおり

- 10:00 道の駅甲斐大和にて、ネクタリンを購入
- 10:30 ぶどうの丘にて、地下試飲コーナーを見物 ぶどうを試食しシャインマスカットを購入
- 11:30 皆吉にて、ほうとうを初めて食す(2時間待ち!)
- 14:00 勝沼氏館跡を見学(田中くんのみ)
- 14:30 マンズワイン勝沼ワイナリーにて、見学
- 16:00 カフェ・カーサ・ダ・ノーマにて、ケーキセットを堪能

道の駅甲斐大和

私たちが最初に訪れたのが「道の駅甲斐大和」です。道の駅にはその土地の文化や特産物などが色濃く反映されます。採れたばかりの果物や野菜はみずみずしく新鮮そのもの。ふと私の目に留まったのがネクタリンという果物です。表面は赤く、つるつるしており、甘い香りがします。初めて食べるネクタリン。最初に感じるのは桃のような甘さ。あとから少しの酸っぱさがやってきました。味にくせがなく食べやすくておいしかったです。(田中大輝)

マンズワイン勝沼ワイナリー

マンズワイン勝沼ワイナリーではワイナリー見学をさせていただきました。ワインミュージアムではフランスで使われていたぶどうの圧搾機やぶどうの栽培方法などを説明していただき、日本の気候に合わせたワインづくりは多くの困難がありそれらを乗り越えて今のワインがあることがわかりました。ガイドさんに続いてひんやりとした地下へ降りるとたくさんのワイン樽が貯蔵されていました。見学の最後には試飲コーナーがありました。ワインだけでなく蜂蜜柚子酢やぶどうジュースもあり私たちもおいしくいただきました。おいしそうにワインを飲む方々を見て私も早くワインを飲めるようになりたいと思いました。(藤本かおり)

勝沼氏館跡

昼食のあと、「勝沼氏館跡」を見物しました。一見すると草の生い茂る原っぱです。これほど大きな土地に館を構えていた勝沼氏とはどのような一族なのか調べたところ、あの武田信玄とも関わりがあった家系だとわかりました。今は亡き勝沼氏に思いを馳せました。力強く戦国の世を生き抜いた彼らを立派だと思うと同時に、どんなに勢いのあるものでも滅亡から逃れられないという、盛者必衰の理を実感しました。(田中大輝)

ぶどうの丘

次に訪れたのは「ぶどうの丘」です。あいにくの曇り空でしたが展望台からは広大な甲府盆地を一望することができました。地下へ続く階段を降りるとそこには約200銘柄、最大約2万本のワインが揃えられているというワインカーヴがありました。専用の容器タートヴァン(1100円)を購入すると試飲することができ、お気に入りのワインを見つけることができます。私たちは未成年なので試飲はできませんでしたが、落ち着いた雰囲気の素敵な空間を味わうことができました。ぶどうの丘を出て少し歩くと甘い香りが広がり、桃やぶどうが売られていました。全種類試食することができ多くの人で賑わっていました。私のお気に入りは種なしで皮ごと食べることができるシャインマスカットです。口に入れた瞬間ジューシーな果汁と爽やかな甘さが広がり何個でも食べたくなるおいしさでした。(藤本かおり)

カフェ・カーサ・ダ・ノーマ

最後に訪れたのは、「カフェ・カーサ・ダ・ノーマ」です。こちらは原茂ワインに併設されたカフェで、1階はワインの販売スペース、2階はカフェとなっています。とてもお洒落な雰囲気でした。メニューにはワインが並び、ワインとプレートを楽しむお客さんが多かったです。私が頼んだのは「桃のチーズケーキ〜桃のコンポート添え〜」です。もったりとした重めのチーズケーキは濃厚で、あとを引くおいしさでした。添えられた桃のコンポートは爽やかな甘みで、さっぱりとした味わいなので、チーズケーキと一緒に食べるとまた違ったフルーティな味を楽しむことができました。ワインを飲めるようになったら、またここを訪れて飲めたらいいなと思いました。(須田真琴)

皆吉

さてお昼ご飯。3人とも一度も食べたことがない「ほうとう」を食べることにしました。訪れたのは「皆吉」というお店です。けやき造りの古民家のお店で、一目でわかるほどの人気ぶりでした。私たちは2時間待ちました。店内に案内され、運ばれてきた鶏肉ほうとうはお味噌のいい香りがして食欲をそそられました。自家製のお味噌の深みのある味わいと野菜の旨味が引き出されたスープは、コシがありもちもちとした麺とよく絡み、とてもおいしかったです。お肉と野菜もたっぷり入っており、お腹が満たされました。お客さんは子どもから年配の方までいて、老若男女が楽しめるその美味しさに、私も感動してしまいました。(須田真琴)

これで安心、解決! 甲州市の移住に関する何でも相談。まずはチェック!

教えて! 甲州らいふ

甲州市で暮らしてみたいけど、わからないことがたくさん。そんな疑問や、子育てのこと、住む場所の探し方など、甲州市に住む(甲州らいふ)ための情報をお届けします。

実際に移住を検討されている方からよく聞かれる質問にお応えします。

Q. 現在子育て中です。甲州市には、どんな子育てサービスがありますか?

A 甲州市には、安心して妊娠・出産・子育てができる充実した母子保健・子育て支援の体制が整っています。主な子育て支援は次のとおりです。

- **妊産婦新生児訪問事業**…妊娠中2回、新生児期に2回、2ヶ月児に1回、保健師と助産師の訪問が受けられます。
- **ママの安心テレホン**…妊婦さんや産後ママの不安解消のため、電話相談ができます。
- **マタニティークラス**…妊娠や出産についての詳しい知識やお産のためのコツ、育児情報や実技指導などを実施しています。
- **産前・産後ママのほっとスペース**…妊婦さんや産後のママが赤ちゃんと一緒に気軽に立ち寄れ、助産師や保健師の専門相談も受けられます。
- **乳幼児検診**…3ヶ月、7ヶ月、1歳6ヶ月、3歳、5歳児を対象とした健診や2歳児親子歯科検診を実施しています。
- **育休学級**…育児の知識や制度の学習、育児相談、仲間づくりの場を提供しています。

Q. 田舎暮らしをしたいと思ったら、まず何をしたらいいでしょうか?

A 何を目的に移住するか、仕事や移動はどうするかなど、まずは自分がどんな生活をしたいかイメージしてみてください。その生活がこの地域で実現できるかどうかを考えてみてください。

Q. 地域になじむにはどうしたらいいですか?

A 引っ越してきた自分が新参者という意識を持ちつつも、地域の住民に対して壁を作らずに接していくことが大切です。また、地域の行事に積極的に参加することで、住民と接する機会が増えてつながりが強まります。

Q. 買い物ができる場所はどれくらいありますか?

A 各地域にスーパーマーケットやコンビニエンスストアが点在しています。洋服や電化製品などは、地域によって店まで、やや長距離の移動を要することがあります。

Q. 住宅や土地を探すためのよい方法はありますか?

A 不動産会社にご相談ください。その他、甲州市では空き家バンクを実施していますので、空き家バンクに登録されている物件にご希望のものがあれば、宅建協会が仲介の上、交渉することができます。

Q. 交通機関はどのようなものがありますか? マイカーは必要ですか?

A 市民バスを運行していますが、本数に限りがあります。事前に電話予約して利用するデマンドバス(塩山地域のみ運行)もありますが、マイカーがあれば移動の融通はしやすくなります。

Q. どのような気候ですか?

A 夏は暑く、冬は寒いなど盆地特有の寒暖の差が大きいです。このため、ぶどうなど果樹栽培が盛んになっています。年間の降水量は少ないのですが、夏から秋にかけて集中豪雨が発生することもあります。

Q. 農業を始めたい場合、まず何をすればいいでしょうか?

A 甲州市では就農定着支援制度推進事業を実施しています。優れた技術を持つ農業者(アグリマスター認定者)の指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得するのを支援するもので、毎年研修生を募集しています。その他、農地の賃借や就農に関することは、市役所もしくはJAフルーツ山梨(農協)にお問い合わせください。

知ってて
安心、充実の
自治体サービス

甲州市の支援制度

移住を考えたとき、思いつくのが「自治体の支援サービス」です。住宅の購入やリフォームはもとより、子育て、福祉など、甲州市では定住・移住に関する様々な支援制度があります。甲州市に移住を考える方は、ぜひご覧ください。

子育て

産前産後

- ●妊産婦・新生児訪問指導
- ●ママのあんしんテレフォン
- ●妊婦健診の助成　●マタニティークラス
- ●産前・産後のママのほっとスペース
- ●ファミリーサポート制度

助成制度

- ●児童手当　●子ども医療費助成制度

住

甲州市住宅リフォーム補助事業

市民の居住環境の向上を図るとともに、本市の経済の活性化に役立てるために、市内の施工業者により行う住宅リフォーム工事費の一部を補助します。

対象住宅の増築、一部改築、改修、修繕、模様替え、設備工事等の対象工事費が 20 万円以上（消費税含む）のリフォームで、市内の事業所によりリフォームを行う工事。

- **●リフォーム補助**…最高限度額 10 万円（工事費の 1 割）
- **●木造住宅耐震リフォーム補助**…最高限度額 20 万円（工事費の 1 割）
- **●空き家住宅リフォーム補助**…最高限度額 20 万円（工事費の 2 割）

※補助金額は、千円未満の端数は切り捨てとなります。

働く

就農定着総合支援制度（アグリマスター制度）

市では、就農を希望する方への農業技術の習得等を支援するため、優れた技術を持つ農業者（アグリマスター）や地域のグループの指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得する長期研修の支援制度を実施しています。

●支援内容

①栽培技術の習得研修　②農業経営管理手法の習得研修　③農作物の流通・販売に関する研修
④その他研修生の自立に認められる研修など　※研修期間中の研修手当として、1 ヶ月あたり 5 万円等を支給します。

シェアオフィス甲州

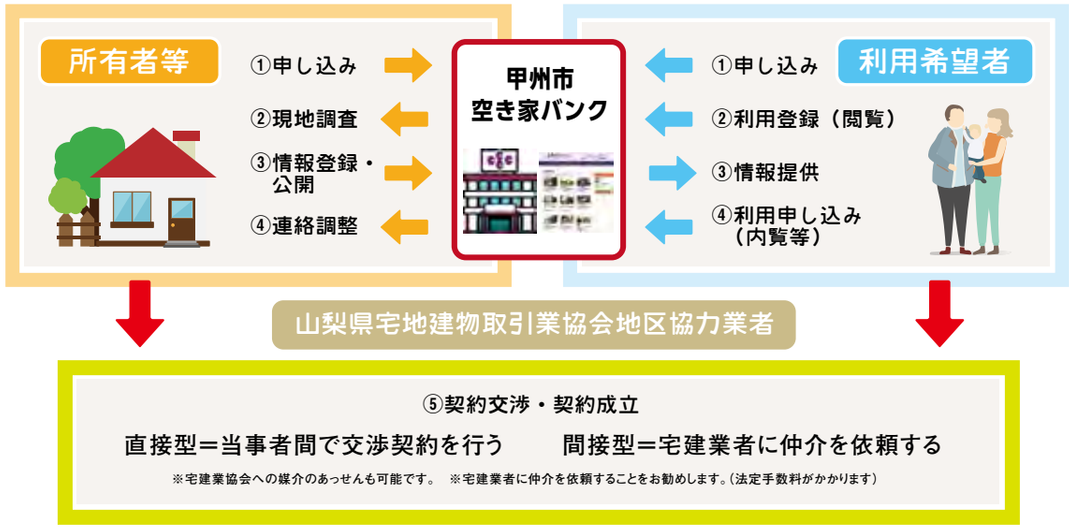
市では、新しい働き方としてテレワークやクラウドソーシングを推進するため「シェアオフィス甲州」を整備しました。パソコンや IT を使って都内と変わらない働き方ができます。

まずは
住む場所を
チェック！

空き家バンク制度

市では、賃貸もしくは売却を希望する空き家の所有者（建物の有効活用）と、田舎暮らしを希望するみなさんが出会えるよう、建物の有効活用と定住促進を目的に空き家の情報提供と移住希望者への情報発信をする、空き家バンク制度を設けています。

空き家バンク登録及び利用の流れ



【空き家バンクについてのお問い合わせ先】
甲州市役所 ☎ 0553-32-2111　Mail： akiya-bank@city.koshu.lg.jp
甲州市ホームページ内 **特設ページ「空き家バンク」**もご覧ください。
アドレス（甲州市 HP） http://www.city.koshu.yamanashi.jp/iju/

甲州市の概要 -Summary-

●人口	31,915 人（平成 30 年 10 月 1 日現在）
●面積	264.01 平方キロメートル
●年間平均気温	13.7 度（勝沼地点／平成 24 年記録／気象庁発表）
●教育環境	保育所・保育園・認定こども園・小学校・中学校・高校・短期大学校
●鉄道（JR 中央線）	甲斐大和駅／勝沼ぶどう郷駅／塩山駅
●自動車	中央自動車道・勝沼 IC
●バス	新宿から甲州市への高速バスが運行。

甲州市の施設 -Facirity-

●公立保育所	4 ヶ所	**●県立短期大学校**	1 校
●市立保育園	6 ヶ所	**●病院・診療所等**	26 ヶ所
●認定こども園	3 ヶ所	**●図書館**	4 ヶ所
●児童クラブ	14 ヶ所		
●市立小学校	13 校		
●市立中学校	5 校		
●県立高校	1 校		

「甲州らいふ♪ つたえ隊」が
取材中にふと見つけた魅力

Photo DIARY

それぞれの目線で撮る
甲州市の人、場所、もの。

氣賀澤望

「パンテーブルの取材時、オーナーの奥山さんが出してくださった『もちぷよ』。あまり生産されていない珍しいトマトなんだとか。無農薬で作られた安心安全な『もちぷよ』は普通のトマトとは違い食べるとプニプニしていておもしろい食感でした。夏といえばやっぱりトマトだなと思った瞬間でした」

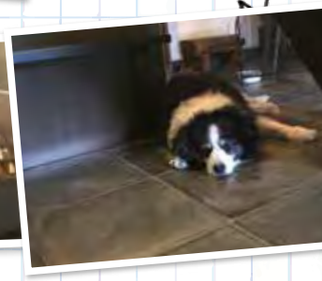
藤本かおり

「ぶどう園の地面を見るとぶどうの影が一面に！じゅうたんみたいで思わず写真を撮りました。陽の角度によって違った模様になる天然のぶどうのじゅうたんはとっても綺麗でした。もうひとつは野菜と果物の直売所での一枚です。ヤングコーンは缶詰やパックのイメージが強かったので、皮付きのまま生で販売されている姿に驚きました。とうもろこしを本当にそのまま小さくしたような形でかわいかったです！」

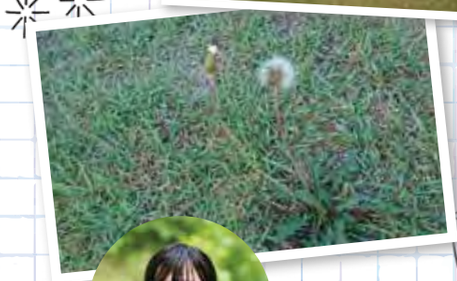
「勝沼ぶどう郷駅の観光案内所にいるペッパーくんの写真です。改札を通るときに観光案内所の扉からちらっと見えるのですが、いつもうなだれている様子…。どうやら体調が悪いみたいです。ペッパーくんがはやく元気になりますように…。いつか観光案内をしている姿をみてみたいです。下は、祝橋から撮ったぶどう畑が広がる風景です。橋の上から眺めるととっても壮大な感じがします。秋には一面紅葉がかったぶどうの葉になるので季節感を味わえますよ！」

川﨑かな子

須田真琴



「この犬は、カフェ「カーサ・ダ・ノーマ」の看板犬です。お店に続く階段の下でお出迎えしてくれました。おとなしく座ってお客さんをお出迎えしたり、わんわんと吠えてみたり、眠たそうにしていたり、自由な姿にとても癒されました。古民家のような空間で、あたたかい雰囲気に囲まれて育ったからこその愛らしさ。これからもお客さんを出迎える立派な看板犬として愛され続けてほしいと思いました」



鶴田有紀

「8月下旬、よく車で通る道沿いにある広場。よく子ども達が遊んでいるのを見かけますが、この日は平日だったので誰もいませんでした。友だちの用事が済むまで時間があったので広場をぶらついたり、休んだりしました。そうしていたら、タンポポがひょっこりしていました(笑)少し悩んでいたこともあり、心がほっこりしました」

新津カンナ

「ソフトクリームは日川渓谷レジャーセンターにてご馳走になりました！自分たちで作ったので形は個性的ですが（笑）とっても美味しかったです！取材終わりの寄り道では原茂ワインに行きました。新メンバー1年生たちの微笑ましい光景に、ついパシャりと記念撮影^ ^」

「これはとあるカフェの中にある建物の写真なのですが、何の建物かわかるでしょうか。なんとトイレなのです。店の人にお話を伺ったところ、まわりの自然や落ち着いた雰囲気の店との調和を実現した自慢の建物なのだそうです。たかがトイレ、されどトイレ。こういった景観に対する小さな取り組みの積み重ねが甲州市の素晴らしい風景を形作っているのかもしれませんね」

田中大輝

川村春乃

「日川渓谷レジャーセンターで撮影。緑が目立つ中ひっそりとお花も咲いていました。久々に花を見てなんだか癒やされました」

佐塚 玲衣

「甲斐ワイナリーで見たバルベーラの木。今までいろんなワイナリーでぶどうの木を見せていただきましたが、バルベーラの木を見たのは初めて！ 風間さんのお話ではバルベーラは思ったように色づいてくれず、栽培が難しいそうです。今年のぶどうはうまく色づいたかな？」

甲州市の人や暮らしを伝える

甲州らいふ

koshulife

ご自由にお持ちください

TAKE FREE

甲州らいふ　Vol.08　発行日：2018年11月1日
発行元：山梨県甲州市役所 政策秘書課　制作／取材／編集：山梨県立大学
デザイン／写真／取材補助：BEEK DESIGN
【お問い合わせ】山梨県甲州市役所 政策秘書課　☎ 0553-32-2111（代）
https://www.facebook.com/koshulife

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C131518

県産材利用促進

■やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、山梨県の森林認証材も利用活用されています。
また、ご使用される事で収益金の一部は、山梨県緑化推進機構に寄付され、森林環境保護・水質保全の支援に役立てられます。